

厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の把握及び支援基盤の構築に関する研究
総合研究報告書（平成 29～令和元年度）

IV. 分担研究報告

4 サリドマイド胎芽症患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究
一 放射線診断学的見地からの検討

研究分担者 田嶋 強 国立国際医療研究センター病院放射線診断科 診療科長

目的：本研究の目的はサリドマイド胎芽症患者における健康上の問題点を放射線診断学的見地から明らかにすることである。われわれは、これまで CT、MRI を用いて全身の画像所見を解析し、身体内部異常の放射線学的所見と頻度について考察を加えて報告してきた。

対象と方法：各年度、検診の一環として CT、MRI、骨塩定量、マンモグラフィ、頸椎 X-P、胸部 X-P を用いて、身体内部異常、悪性腫瘍スクリーニング、骨塩定量などに関する画像スクリーニングを実施した。受検者はのべ 22 名（男性 15 名，女性 7 名）。受診時年齢は 55-60 歳（平均 56.6 歳）。

結果：主な結果を示す。

- 1) 側頭骨 CT：10/21（48%）で異常を認めた（内耳低形成、耳小骨低形成、外耳道閉鎖、耳介変形など）。
- 2) 頭部 CT：1/20（5%）で異常を認めた（脳梗塞）。
- 3) 脊椎 CT：13/20（65%）で異常を認めた。潜在性二分脊椎 17/20（85%）、頸椎症 14/20（70%）、腰仙椎形成不全 4/20（20%）、塊椎 2/20（10%）などの頻度が比較的多かった。
- 4) 体幹部 CT：12/20（60%）で異常を認めた。脂肪肝（20%）、副鼻腔炎（10%）、甲状腺結節（10%）、心拡大（10%）、肺結節（10%）、馬蹄腎（10%）、無胆嚢症（10%）などの頻度が比較的多かった。その他、肝左葉分葉異常、腎回転異常、腎結石、腎低形成なども見られた。悪性腫瘍は見られなかった。
- 5) 脂肪測定（内臓脂肪）：11/22（50%）で内臓脂肪蓄積型肥満を認めた。
- 6) 骨粗鬆症：17/22（77%）で異常を認めた。

考察・結論：身体内部異常については、本疾患に特異的と報告されている画像所見（塊椎、無胆嚢症、中耳・内耳形成異常）が一定頻度で見られた。それに加えて、潜在性二分脊椎や腰仙椎形成不全が一般人口と比較して高頻度に発生し、胎生期異常との関連性が示唆された。その他、内臓脂肪蓄積型肥満（50%）、頸椎症（70%）、骨粗鬆症（77%）など生活習慣病や加齢性変化が高い頻度で認められ、対策が必要と思われた。